

令和元年度 第1回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

日 時 : 令和元年8月19(月) 18:30~20:45
場 所 : 帯広市役所 10階第5B会議室
出席委員 : 金山会長、有塚委員、岩田委員、氏委員、太田委員、川上委員、柴田委員、日月委員、林委員、村田委員(以上10名)
説明員 : 池原政策推進部長、石井政策推進部企画調整監、西尾企画課長、
(事務局) 高橋企画課主査、千葉企画課主査、廣澤企画課主任、赤坂企画課主任補
傍聴者等 : 報道関係者2名
配付資料 : 会議次第、委員名簿、第七期帯広市総合計画素案、第六期総合計画推進状況報告書、第七期帯広市総合計画評価方法、第七期帯広市総合計画各施策キャッチフレーズ、目指そう指標(素案)、補足資料1、補足資料2

◆会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第七期帯広市総合計画素案について
 - (2) その他
3. 閉会

◆議事概要

【事務局】 18時30分時点で、委員15名中、9名の委員が出席し、過半数に達しているため、帯広市総合計画策定審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告する。

本日は、本年1月に本審議会よりいただいた答申を踏まえ、帯広市で作成した第七期帯広市総合計画(素案)の内容について、ご説明させていただいた上で、今後の原案作成に向け、ご意見をいただきたいと考えている。

【会長】 昨年度は、市長から新しい総合計画の策定にあたって意見提言するよう諮問を受け、計9回にわたって議論を重ね、諮問に応えるべく答申書をまとめさせていただいた。答申をまとめるにあたっては、委員の皆さんに多大なるご尽力をいただいたことを改めてお礼申し上げます。

る。

今回は、答申書を踏まえて作成された第七期帯広市総合計画(素案)について審議することになっている。

なお、本日の議論の内容については、今後、帯広市で作成する第七期総合計画の原案に反映される予定となっているので、皆さんの活発な議論をお願いしたい。

また、事務局では、第六期総合計画の取り組みを踏まえ、計画の進め方についても色々と検討を行っており、これから審議する内容にも関わってくるので、限られた時間ではあるが、有意義な審議会となるようご協力をお願いしたい。

それでは、議事の(1)「第七期帯広市総合計画素案について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】 — 資料「第七期帯広市総合計画(素案)」、「第六期帯広市総合計画推進状況報告書」、「第七期帯広市総合計画評価方法」、「第七期帯広市総合計画各施策キャッチフレーズ、目指そう指標(素案)」、「補足資料1」及び「補足資料2」により事務局説明 —

【会長】 ひと通り説明があったが、意見等があれば、ご発言いただきたい。

【委員】 キャッチフレーズは、行政として仕事をやりやすくするために作ったものなのか。

【事務局】 第七期総合計画については、行政だけが進めていくという視点ではなく、市民とともにまちづくりを進めていきたいという思いがあり、少しでも市民の方に理解・共感をいただきたいとの考えから、キャッチフレーズを設定させていただいた。

【委員】 まちづくりを市民と一緒に進めていくという考えがあるとのことだが、こういう出し方にしてしまうと、キャッチフレーズは、行政側から出してきたものとなる。せめて、この部分くらいは、市民と一緒に考えても良いのではないか。

市民と一緒に考えていくことを通じて、市民のまちづくりに対する

理解が深まるのではないか。

市民協働を目指し、市民に対して、まちづくりの担い手としての自覚を育てていこうとしているのであれば、少し面倒だとしても、せめて、この中の一つ・二つでも市民と一緒に考えていく部分があっても良いのではないか。

キャッチフレーズに成果を求められることは無いと思うので、こういう部分でこそ、市民と行政との距離を縮められる分野となるのではないか。

また、施策9の「地域産業の活性化」のキャッチフレーズで「とちのかち」を創り続けるとあるがすべてひらがなで読みづらい。

【事務局】 今いただいたご意見は非常に重要な視点であると受け止めている。我々も答申をいただいた後に、どのようにして素案としてまとめていくべきかと言う議論をしてきたが、答申でいただいた「わかりやすさ」をどのように具現化していくかを考えた結果として、キャッチフレーズと言う形をとらせていただいたところ。

今回のキャッチフレーズは、あくまでも案として示させていただいたものであり、今後、本審議会やパブリックコメントなどの機会を通じ、キャッチフレーズも含めて、総合計画に対するご意見を伺ってまいりたいと考えている。

【委員】 市民とともにキャッチフレーズを決めたからと言ってすぐに行動に結びつくとは限らないが、行政と一緒に考えたと言う経験は大事だと思う。すべては無理だと思うが、そのような場があると良いと考えている。

【委員】 キャッチフレーズも目指そう指標も大変良いと思う。わかりやすさもそうだが、短い文章に込められた想いが伝わるのかなと思う。

ただし、キャッチフレーズの中にどこまで具体性を入れ込んでいくかが重要だと考える。例えば、施策1の「健康なからだところをつくる」のフレーズは、一般的な内容となっているが、施策10の観光の振興は、「アウトドアのメッカにする」となっており、アウトドアと言う具体的なワードが入っていることで、そこにフォーカスされて

おり、逆に取り組みを進めていく上での縛りにもつながると感じるので、どこまでキャッチフレーズを具体化して指標を決めていくかが重要だと思う。

同時に、目指そう指標は、現在、各施策の一つずつ設定されているが、一つでは測れないものもあると思うので、複数あった方が良いと考える。

また、例えば、観光分野と健康分野とスポーツ分野が一緒になって取り組んでいくなど、各施策について、横串を通していこうという文言があると連携しやすくなると思う。

【事務局】 目指そう指標の関係についてあるが、おっしゃる通り様々な指標があるかと思う。計画全体で言うと、各施策を構成する事務事業に成果指標を設定することを考えている。

目指そう指標については、わかりやすさや市民の方との一体感を重視して、あえて指標を一つに絞っている。

【委員】 あくまでもわかりやすさを追求するということか。では、キャッチフレーズにどこまで具体性を持たせるかと言うことに対する考えは。

【事務局】 例えば、「世界に冠たる十勝農業を創る」と言うキャッチフレーズは、かなり攻めているところであったり、それぞれの具体性に強弱と言うかレベルの違いはあると考えている。これらをいかに具現化していくかと言う点については、今後、検討してまいりたい。

【事務局】 キャッチフレーズについては、庁内においても各施策でどこまでをどう捉えていくかと言う部分の議論は確かにあった。

例として、観光分野で言えば、今後10年間でどこを目指していくのかと考えた時に、やはり、十勝としては自然を活かしたアウトドアではないかと言う話になり、それをいかに市民の方に共感していただくかを考えた結果、あえてアウトドアという言葉を出した方が共感を得られるであろうという結論に至り、設定させていただいた。

同様に健康分野で言えば「健康なからだところをつくる」とすれば、様々な方に共感いただけるのではないかと言うことで設定をさせ

ていただいたことから、焦点が絞られているものとそうでないものが混在しているところはある。

また、目指そう指標のみをもって施策全体を評価するのではなく、基本的には施策を構成している事務事業毎に成果指標を設定し、評価を行いたいと考えている。

目指そう指標については、あくまでも市民と一緒に取り組みを進めると言うことに視点を置いていることから、指標がたくさんあると、市民の方から見ても、どれを目指せば良いのかわかりにくくなってしまおうと言う懸念もあり、一つに絞らせていただいた。

ただし、キャッチフレーズも目指そう指標も、あくまでも素案としてお示しさせていただいているものであり、これに決定したものではなく、今後、議会での議論や市民の方からいただいたご意見などを踏まえ、最終的に決定していきたいと考えている。

【会 長】 キャッチフレーズは 10 年間変わらないのか。

【事 務 局】 10 年間を見据えた時に、市がどのような方向で取り組みを進めていくかと言うベースになるものと考えており、基本的には変わらないものと捉えている。

【会 長】 キャッチフレーズに対する目指そう指標と言う理解で良いのか。

【事 務 局】 キャッチフレーズは、市民の方に共感をいただくためのものとして設定しており、目指そう指標については、その施策の中でどういうことであれば、市民の方とともに取り組んでいけるかと言う視点で設定しており、一定の関係性はあると考えている。

【会 長】 施策を評価する際には、事務事業レベルでの成果指標があるので、目指そう指標一つで評価しようと言う考えではないと理解してよいのか。

【事 務 局】 第六期総合計画では、各施策ごとに成果指標と市民実感度を設け、それらをもとに、本審議会でもご意見をいただきながら、総合評価を

行ってきたが、成果指標と市民実感度に乖離が生じていることや、施策の評価が事業ごとの評価に結びついていないなどのご意見をいただいていたところであり、第七期総合計画については、事務事業ごとに成果指標を設定し、その事業がどこまで進捗したのかについて、事業単位で評価をしていきたいと考えている。

目指そう指標については、あくまでも市民の方に共感をいただくと言う観点で、ともに取り組む指標を一つ掲げて進めていこうと言うことで設定させていただいた。

【会 長】 第六期総合計画の指標の考え方と違いがあると言うことは理解した。

【委 員】 キャッチフレーズについて、具体的にわかりやすい言葉で書くと言うのは賛否両論あって、行政から打ち出すのは難しさがある中で、具体的に踏み込んでいるところがあり、その点について評価したい。

目指そう指標についても市民と共感できるようなものを作ろうと言う意図は理解するし、すごい挑戦だと思うが、この指標に対して、目標値を設定する考えはあるのか。また、それに対して、今の評価のようにA B C Dのような評価をする考えはあるのか。

と言うのも、第六期総合計画の成果指標について、目標が高すぎたために、常に評価が低くなっている項目もあり、あまり目標値に縛られ過ぎるのも難しい面があると考えている。

【事 務 局】 第六期総合計画では、成果指標について10年後の目標値を掲げ、それに対する毎年度の進捗状況を把握していたが、ご指摘いただいた通り、何年も経過すると、目標値と実績との間に乖離が生じてきている指標もある。

第七期総合計画では、目指そう指標の目標値について、3年ごとに作成する推進計画の中で設定していきたいと考えており、基本計画では、10年後の目標値ではなく、指標の方向性を示すことを考えている。

なお、3年後に目標値の達成状況を踏まえ、次の目標値を設定することや、場合によっては、指標自体を再度検討することもあり得ると考えている。

事務事業ごとに設定する予定の成果指標についても 3 年後の目標値を設定し、しっかりと検証しながら、取り組みを進めていきたいと考えている。

【会 長】 目標値の考え方は第六期総合計画とかなり異なっている。第六期総合計画で言えば、目標値を達成してしまった指標について、目標値を変更しないのかと言うような議論もあったが、今回の第七期総合計画では、変化の激しい時代であることを踏まえ、3 年間と言うスパンで目標値を設定して、その中で評価するという形になっている。その意味で目指そう指標も変化する可能性もあり得ると言う理解で良いか。

【事務局】 目指そう指標を設定する予定の基本計画は、期間を 10 年間としているが、必要に応じて見直しを行うことも想定しているので、可能性はゼロではないと考えている。

【会 長】 施策間の横串を通すということについて、何か考えはあるのか。

【事務局】 各施策の連携を促進するために、想定できる範囲であらかじめプロジェクトを設定することも検討したが、今後、どういった地域課題が生まれ、どういった連携が必要になるのかと言うことが読みづらいところもあり、施策間の連携は柔軟に対応していくと言う考え方を計画の中にお示しさせていただいているところである。

【事務局】 例えば、スポーツの振興に係る施策における事務事業で、健康や観光に関連するものについては、健康や観光の施策の中でも、その事務事業を再掲と言う形で位置付けることで連携を促していくことも考えている。

【委 員】 市で実施する事務事業は、一石四鳥や一石五鳥の効果を持つ方が望ましいと思う。ぜひ、そういうタイプの事務事業が推奨されていくような方向に促していただければと思う。

【事務局】 これまでの審議会でもご意見をいただいていたところでもあるが、

複雑多様化する地域課題への対応について、なかなか一つの分野で完結することは難しい状況となっている。

行政の様々な分野を整理していく時に、縦割りと横割りとがあると思うが、はじめから横割りをすべて設定しておくことは難しい。ただし、縦割りで計画を作ったから、その範囲内だけ見ていれば良いと言うことでは無いとはっきりと打ち出したいと言う思いがあり、施策間の連携と言う項目を示させていただいた。

また、各施策においても、様々な連携の可能性があると考えられるものについては、できるだけ連携を意識した表現としている。例えば、施策 15 の「スポーツの振興」の主な取り組みの中に、健康増進や交流の促進などにつなげていく視点を設けるなどの工夫をしているところである。逆に観光の施策については、アウトドアに関するキャッチフレーズを設定したからと言って、そこだけに取り組む訳ではなく、施策の記載内容を見ていただければわかる通り、この地域ならではの資源を活かした観光コンテンツの開発と言った視点を持っている。

【会長】 施策間の連携は重要であるが、連携を促進していく方法や、どこがイニシアチブをとっていくかを定めることなど難しい部分もあると思う。ぜひ上手く進めていただきたい。

【委員】 素案 5 ページの (6) の 2 行目にある「基礎自治体」とは何を指すのか。

【事務局】 国の行政区画の最小単位として、市町村のことを指している。

【委員】 北海道は基礎自治体ではないのか。

【事務局】 あくまでも一番身近な単位の地方公共団体と言う意味で基礎自治体と表現しており、その中に都道府県は含まれていない。

【委員】 行政で使っている言葉に馴染みが無いのでわかりづらい。市民との協働と言うことを真剣に考えているのであれば、表現もわかりやすくしてほしい。

【事務局】 第七期総合計画については、キャッチフレーズを設定した背景でもあるが、市民の行動があるまちにしていきたいと考えており、そのためには、まちづくりの方向性を共有していく必要があると考えている。

確かにこれまでの総合計画は、行政職員のバイブルとしての性格が強かったが、それだけでは無いと言うことで、第六期総合計画から市民との協働を進める観点を持って取り組んできた。

そして、第七期総合計画については、協働を進めていくために、まず市民に読んでもらえる計画にしていこうと言うことで、わかりやすさを基本に作成してきたところである。

しかしながら、我々が普段使っている言葉でも、市民の方が読んだ時に、わかりにくい部分もあるとは思っているので、お気づきになった部分があれば、指摘いただきたい。

【委員】 逆にフードバレーという言葉は馴染みやすいので使っていったら良いのではないか。

【委員】 キャッチフレーズは親しみがあって良いと思うが、目指そう指標に市民と一緒にあってほしいことが記載されていると市民も何をしたら帯広市の役に立てるのがかわかると思う。

例えば、観光の施策で「アウトドアのメッカ」にするとすると言うキャッチフレーズがあって、目指そう指標が「宿泊客延べ数」となっているが、普段生活をしていて、この指標の数値を増やすことに貢献することは難しいように感じる。

ただし、例えば、市民が地元のインスタ映えするところをSNSで発信するなどにより、観光地としての関心が高まり、宿泊客延べ数の増加に寄与することもあると考えるし、行政としてもポロシリキャンプ場の特集をしていくなど、具体的に記載することで一緒にまちづくりを進めていくことにつながっていくのではないかと考えている。

【事務局】 施策によっては、市民の行動に結びつきにくい部分もあるが、まちづくりを進めていく上での視点としては重要であると考え。

どういった形が良いのかと言う点については、今後検討していきたい

いと考えている。

【会 長】 今のご意見は非常に重要な視点であると思う。キャッチフレーズはわかったが、市民は具体的に何をすれば良いのかと言うことが理解できれば大分違うのではないか。

【委 員】 先の8月11日の地元紙に総合計画に関する記事が1面に掲載されていたが、市としては報道内容をどのように受け止めているのか。

また、キャッチフレーズについて、行政的ではなくて良いと考えているが、パッと見た時に、統一感がなく、リズムが悪い・バランスが悪いと言う印象を受けた。

施策5の「バリア（障害）をバリュー（価値）に変える」について、意味は理解できるが、捉え方によっては誤解を招くのではないか。

施策10の「アウトドアのメッカにする」は良いと思うが、これだけ飛び抜けて具体的すぎるのではないか。

【事 務 局】 報道内容についてであるが、わかりやすさを追求する視点や人口が減少していく中で、市民の皆さんとまちづくりを進めていく必要があるとのことについては重要であると認識している。

統一感と言う意味で言えば、市民に共感をいただくと言う視点からできるだけ能動的な表現としたかったが、施策によってなかなか統一することが難しい部分もあり、現段階としてはこのような形となっている。

施策5については、おっしゃる通り捉え方が様々あると考えており、このフレーズを検討する時に、担当部署と障害者団体との間で意見交換をしている経過がある。その中では、特段の異論はなかったところである。

【委 員】 今の説明で概ね理解できたが、施策5だけは、間違えると辛い思いをされる方がいらっしやると思う。

【事 務 局】 今お示ししているのは、あくまでも案であることから、今後、色々のご意見をいただく中で整理をしていきたいと考えている。

【事務局】 キャッチフレーズについては、元の案は各担当部署で作成したものであり、当然、統一感が無いものとなっていた。そこで、統一することも可能であったが、市民や域外の人に共感いただくために各部署で行われた検討のプロセスも、今後のまちづくりを進めていく上で重要であると考えている。

今後、本審議会や議会での議論のほか、市民の方から意見を聴く機会を設け、キャッチフレーズを作り上げていきたいと考えている。その中で統一できるものについては、統一していきたいと考えている。

【委員】 キャッチフレーズについては、新聞報道等において、市民レベルでわかりやすくすると言う考え方が示されていたので、市民は第七期総合計画に期待している部分があると思う。

また、「スポーツの振興」の施策の背景に、帯広市が健康スポーツ都市宣言をしていることが書いてあるが、宣言をした当時の状況とこれから取り組んでいく状況は変わるのではないかと考えていることから、その点を今後の推進の中で示していければ良いと考える。

観光については、インバウンドに関して釧路がかなり力を入れて取り組んでいるので、そことの連携をしっかりと、チーム東北海道と言う形の中の帯広市と言う立ち位置で推進ができればと個人的には考えている。

施策8の「農林業の振興」について、今後10年間でTPPなどの課題もある中で、施策の内容としては、それぞれ必要なものであると考えるが、農業に携わっている方はどのような意見をお持ちなのか。

【委員】 キャッチフレーズの「世界に冠たる十勝農業を創る」について、農業者としては、自分の仕事に誇りを持って取り組んでおり、輸出も含め、これから海外を意識した取り組みが必要であると考えているので非常に良いと思う。

また、目指そう指標は、農業産出額は天候などに左右される部分が大きいと思うので、その年だけで判断するのはどうかと思うが、数値として一番わかりやすいのが農業産出額であると思う。農業に関しては、金銭のみではなく、食料自給率など豊かさを表す指標があれば良

いと考える。

【委員】 この地域の農業は先駆的であると思う。だからこそ、10年後の課題もしっかりと考えていかなければならないと思う。

【会長】 農林業の目指そう指標は、単純な農産物だけの産出額とするのか。「農林業の振興」の中には、付加価値向上という言葉も含まれているが、ここで言う付加価値は、農産物そのものの価値を高めると言う観点と、域内で農産物の付加価値を高めると言う観点の両方があると思うが、どのように捉えているのか。

【事務局】 「農林業の振興」の目指そう指標については、現時点で、農業産出額とさせていただいているが、他地域との比較と言う視点を持って設定をさせていただいている。

農林水産省において、全市町村の推計値を公表しており、帯広市には全道3位となっている。こうした農業の力と言うものが、市民の方に知られていない部分もあるかと思い、設定をしたところ。

なお、先ほど、年によって数値が増減すると言ったご意見も伺っていたところであるが、例えば、目標値を道内における順位とし、その順位をキープしていくと言う目標であれば、指標としても設定可能ではないかと考えている。

また、付加価値の部分については、地域内と言うことにすると、工業・商業も当然関わってくる部分になることから、ここではあくまでも農産物の産出額として指標を設定させていただいている。

【委員】 施策8の「農林業の振興」の施策の背景に人口減少に伴う国内市場の縮小とあるが、日本は外国から多くの食料を輸入しているので、国内市場が縮小すれば輸入をしなくても良くなるのではないかと。

【会長】 ここでは日本国内におけるトータルの市場のことを指している。グローバル化が進む中、安いものを求める人がいれば、海外の安価な品物が手に入りやすくなり、国内市場を占める海外産の割合が高まり、国産物に関する市場が縮小する可能性が無いわけではない。

また、安価な品物を求める人がいるのであれば、単純に外国からの輸入を減らすと言うことに対して、国民の理解を得るのが難しいのが現状ではないか。

だからこそ、今、農業分野で取り組まなければならないことは、競争力の強化と国民に対する国産農産物の価値の認識向上、海外における日本の農産物の価値を高めることであると考えている。

【委員】 その点は理解できるが、国内市場がそんなに縮小するものなのか。人口が減少するのであれば、単純に海外からの輸入を減らせば良いのではないか。

【事務局】 人口減少に伴い国内の消費量が減少し、海外の農産物についても、それぞれが品質を高めたり、安さを追求してくることが想定される中で、農業はもとより工業、商業などの国内産業の競争力を高めていかないと、いずれシェアを奪われてしまうと言うことがリスクとして考えられる。だからこそ、会長のご発言にもあった通り、競争力を強化していくことや、国産品に対する理解促進の取り組み、品質向上による海外への展開などに取り組んでいかなければならないと考えている。

【委員】 その中で行政として取り組めることは情報提供であると思う。この地域が農業大国であると言うのであれば、農業に寄り添ったより良い情報の提供は大きな柱の一つになると思う。

帯広・十勝の基幹産業が農業であると言うことは多くの人が理解していると思うが、その品質についてはあまり知られていない。

実は、一歩地域の外へ出て、色々なものを食べてみると、北海道の農産物はやはり美味しいと感じる。

【会長】 海外産も品質が向上しているので、国内産についても競争力強化が必要になっている。

【委員】 素案の4ページの「(4) 人々の価値観や生き方の変化」の中に複線型の生き方へと変化しつつあると記述されているが、複線型と言って

いる割には、生涯学習について、学ぶ機会はあるが、それを活かす機会が少ないと感じている。

高齢者は長い時間は働けないかもしれないが、労働力が不足している現状もあることから、学んだことを社会に生かせる場があると良いと思う。

【事務局】 人生100年時代が到来されると言われることを時代の潮流として捉えているところであり、この潮流に対して、市として何ができるかと言うことでは、例えば、施策13の「学習活動の推進」の主な取り組みの二つ目の中で、学んだことをまちづくりや地域活動に活かしていく視点を含めたところであり、これからの10年間において、その点も重要であるとの認識を示している。

【委員】 なかなか民間では取り組みにくいことだと思うので、行政の方としても考えていただきたい。

また、男女に関することで、色々な意味でよく考えられているなという印象を持っている。

女性や、家事と育児の両立と言う言葉を使わずに、互いに尊重し合いと表現しているのは良いと考える。ただし、現実としては、女性はなかなか浮かび上がれない。ぜひ、同一労働同一賃金の実現を目指していただきたい。

【事務局】 これまで審議会でも色々のご意見を伺う中で、互いに尊重し合うと言う表現に整理をしてきた。

同一労働同一賃金については、重要なことであるとの認識は持っているが、一自治体としてどこまでできるかという部分もある。

したがって、自治体で取り組める部分として、例えば、施策22において誰もが互いに尊重し合う地域を目指すことや、施策9で多様な人材が働ける環境づくりの必要性について整理している。

【会長】 帯広畜産大学も学生の7割弱が女性で、就職にしても昔よりは改善されてきたと言う印象を持っている。

【委員】 それぞれの施策の中で、目指す姿と言う項目があり、将来の姿を表していこうと言う点については、わかりやすく良いと考えるが、表現として伝わりにくいと言う印象を受けた。

例えば、14 ページの施策1の目指す姿の最後が「～暮らせています。」となっているが、これは現在のことか、10年後のことかわかりにくいのではないか。例えば、「～暮らせるまち」であるとか、表現を工夫する必要があると思う。

また、各施策のキャッチフレーズが色々出ていの中で、都市像の「〇〇〇」の部分は、今後どのように決まっていくのか。

【事務局】 目指す姿については、施策を進めることで10年後にどういうまちになっていたら良いかと言うことを示したものであるが、伝わりにくいと言うことであれば、表現について今後検討していきたい。

なお、都市像については、本審議会も含めた様々な方の意見を踏まえた上で、原案の中で示していきたいと考えている。

【委員】 目指そう指標について、市民と市が一緒になって目指す目標を数値化したとあるが、主体である市民がどうやって目指そう指標の達成に取り組むのかがわかりにくい。

それぞれの施策分野に関連している方が目指すのかとも考えたが、個人としてどうやって取り組んでいけばわからないのではないか。

また、例えば、保健福祉・子育てに属する方は施策の何番から何番に関係しているとわかるようにしていく必要があるのではないか。

【事務局】 すべての施策の目指そう指標において、すべての市民の方が関わると言うことは難しく、今ご意見にあった通り、医療の部分で言えば、関係されている方を中心に一緒に取り組んでいくと言うことになると考えている。

それぞれの指標において、どう表現したらわかりやすくなるかと言う点については検討していきたい。

【会長】 目指そう指標を市民にどう捉えてもらえるかと言う点については、整理していただきたい。

また、細かい部分であるが、施策 12 の「学校教育の推進」の中に地元の教育資源を活用する考えが見えなかったので、そういった視点が含まれていても良いのではないかと感じた。

【会 長】 他になければ、本日は、様々なご意見をいただいたので、今後の原案作成に活かしていただければと考えている。

それでは、最後に議事の（２）「その他」について事務局より説明をお願いします。

【事 務 局】 審議会の中でお話できなかったご意見等があれば、本日配付した「意見シート」に記入の上、事務局まで提出いただきたい。

【会 長】 以上をもって、本日の会議を終了する。

以上